

# 西春の葉

福岡県立西田川高等学校図書館

令和6年10月 発行

## 毎年10月27日～11月9日は 「読書週間」です。

毎年10月27日は「文字・活字文化の日」となっています。

また文化の日（11月3日）を間にはさんだ2週間（10月27日～11月9日）は「読書週間」として、約80年近くの間、日本全国で本や読書に関する行事等が開催されています。

この機会に“読書の秋”を楽しんでみてはいかがでしょうか？



※公益社団法人 読書推進運動協議会 HP より

最近図書館に入った本を紹介します。実際に図書館に来て、本を手にとってみてください。

### 【日本の小説・文学】

『今日も明日も負け犬。』 小田 実里[著] 幻冬舎[刊]

“起立性調節障害”という病を抱え、学校に行けなくなった中学生の実話に基づく物語。高校生たちが制作した自主制作映画の原作本。福岡県出身の著者は、16歳の時にこの物語を書いた。「奇跡は少しずつ転がっている。」

『ツミデミック』 一穂 ミチ[著] 光文社[刊]

第171回直木賞受賞作。全6話の“犯罪”小説集。同じ著者が書いた『スモールワールズ』（講談社文庫）は、全部で7話を収録し、2022年本屋大賞第3位となった短編小説集。

『サンショウオオの四十九日』 朝比奈 秋[著] 新潮社[刊]

第171回芥川賞受賞作。周りからは一人に見えるが、隣にいるのは別の私。隣にいるのは誰なのか？今これを考えているのは誰なのか？同じ身体を生きる姉妹の人生を、医者でもある著者が描く。

『バリ山行』 松永 K三蔵[著] 講談社[刊]

第171回芥川賞受賞作。職人気質で孤立しているベテラン社員が「バリ山行」（あえて登山路を外れる難易度の高い登山）を行っているとき、同行する主人公の波多。山登りと人生を重ねる山岳小説。

『なぞとき』 畠中 恵[著] 新潮社[刊]

『しゃばけ』シリーズの第23弾。

『新 謎解きはディナーのあとで』 東川 篤哉[著]（小学館文庫）

毒舌執事と令嬢刑事が活躍するミステリーの新章スタート。

『百年の子』 古内 一絵[著] 小学館[刊]

令和の出版社で児童向けの学年誌（例「小学〇年生」等）出版に携わる主人公の明日花。学年誌の歴史を調べる中で、認知症の祖母が、戦争中学年誌の編集に関わった事を知る。子どもと女性の人権の歴史を描く物語。 （裏面へ）

『ロールキャベツ』 森沢 明夫[著] 徳間書店[刊]

夢も趣味もない大学2年の誠は、「チェアリング」（椅子を持ち歩き好きな場所でくつろぐ事）の仲間たちとの出会いから思わぬ才能を発見し、人生が大きく変わってゆく。

『賢治と「星」を見る』 渡部 潤一[著] NHK出版[刊]

天文学者である著者が、若い時から心惹かれる宮沢賢治作品について、天文学者の立場から解説する。

#### 【外国の小説・文学】

『アルジャーノンに花束を』(新版) ダニエル・キイス[著] (ハヤカワ文庫)

映画化・ドラマ化もされた普及の名作。手術を受け天才に変貌した青年が知る人の心の真実とは？

『カフカ断片集 海辺の貝殻のようにうつろで、ひと足でふみつぶされそうだ』 カフカ[著] 頭木 弘樹[編訳] (新潮文庫)

『百年の孤独』 ガブリエル・ガルシア=マルケス[著] (新潮文庫)

蜃気楼の村マコンドを開墾しながら生きる一族の百年の物語。

#### 【情報】

『図解でわかる14歳から考えるAIの未来と私たち』 インフォビジュアル研究所[著] 太田出版[刊]

『〈弱いロボット〉から考える 人・社会・生きること』 岡田 美智男[著] 岩波書店[刊] (ジュニア新書)

#### 【哲学・神話・宗教・地理等】

『自分を好きになる7つの言葉 口ぐせを変えれば自信と力が湧いてくる!』 中島 輝[著] きずな出版[刊]

『北欧神話解剖図鑑』 蔵持 不三也[監修] エクスナレッジ[刊]

『聖書の解剖図鑑 神さまと私たちの物語』 山野 貴彦[文] エクスナレッジ[刊]

『福博街なか博物館』 角 敬之[著] 『九州異世界遺産』 本田 純一[著] 2冊とも海鳥社[刊]

『ファンタジックアジア 想像をかきたてる幻想的なアジアの風景』 パイ インターナショナル[編集・発行]

#### 【政治・社会・教育等】

『一冊でつかむ地政学 ビジュアル版』 祝田 秀全[監修] 河出書房新社[刊]

『マンガで読む地政学 ジオストラテジクス 世界の紛争・対立・協調がわかる』 パスカル・ボニファス[文]

日経ナショナルジオグラフィック[刊]

『トランスジェンダーQ&A 素朴な疑問が浮かんだら』 高井 ゆと里・周司 あきら[著] 青弓社[刊]

『「コーダ」のぼくが見る世界 聴こえない親のもとに生まれて』 五十嵐 大[著] 紀伊國屋書店[刊]

「コーダ」=聴こえない、聴こえにくい親のもとで育つ聴こえる子ども。複雑な環境を生きる著者のエッセイ。

『教科を越えた「書くこと」の指導 事実を伝え、意見を述べる力を育む』 島田 康行・渡辺 哲司[編] ひつじ書房[刊]

宮原校長先生も、執筆者のお一人です。

#### 【進路・仕事】

『フレイフレー！就活高校生 高卒で働くことを考える』 中島 隆[著] 岩波書店[刊] (ジュニア新書)

『客室乗務員になるには』『特殊効果技術者になるには』『トリマーになるには』『俳優になるには』

『愛玩動物看護師になるには』『ケアマネージャーになるには』(なるにはシリーズ) ベリかん社[刊]

#### 【科学・医学】

『「この世でいちばん」を科学する 惑星から音、温度、臭い、生物まで』 ディヴィッド・ダーリング[著] 原書房[刊]

『世界のかけら図鑑』 古河 郁[著] KADOKAWA[刊]

『科学目線 上から、下から、ナナメから』 元村 有希子[著] 毎日新聞出版[刊]

『元素楽章 擬人化でわかる元素の世界』 揚げ鶏々[著・イラスト] 化学同人[刊]

『熱帯の感染症』 公益財団法人大山健康財団 創立50周年記念出版編集委員会[編集・発行]

『知っておきたい健康の科学知識 「食事」「睡眠」「運動」で健康を手に入れる』 ニュートンプレス[編集・発行]

『エンド・オブ・ライフ』 佐々 涼子[著] (集英社文庫)

著者の友人である訪問看護師の自らの病や死への向き合い方や、著者の両親の話も交え、終末期のあり方を問う。



#### 【ペット・絵本・美術・スポーツ】

『捨てられた僕と母猫と奇跡 心に傷を負った二人が新たに見つけた居場所』 船ヶ山 哲[著] プレジデント社[刊]

『もうじきたべられるぼく』 はせがわ ゆうじ[作] 中央公論新社[刊]

「ぼくはうしだから もうじきたべられる」運命を受け入れた“ぼく”が向かう先は？下した決断は？

『フードバンクとぼく』 米山 けい子[作] 認定NPO法人フードバンク山梨[刊]

家の経済状況がとても厳しく学校に行けなくなった勇輝が、ボランティア活動に通う中で変わっていく。

『はじめて読むレオナルド・ダ・ヴィンチ』 石崎 洋司[著] 講談社[刊]

『神話と伝説 配色アイデア事典』 桜井 輝子[著] エクスナレッジ[刊]

『3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話』 中野 吉之伴[著] 理論社[刊]